

造メーカーが17件、製造設備メーカーが20件と、発表件数が示す通り、製造設備およびプロセスの紹介が大半を占めた。

会議は以下の7 Sessionが設けられ講演時間内、ならびに時間外を問わず活発な討論が行われた。

- 25日 Session 1 : Latest Aspects of Rod and Bar Production and Marketing. (5件)
 Session 2 : Rolling Technology for Rod and Bar Products. (7件)
 26日 Session 3 : Facilities and Operation of Mini Mill. (6件)
 Session 4 : Continuous Casting Technologies for Bar and Rod Products. (5件)
 Session 5 : Quality Control for Bar and Rod Products. (7件)
 Session 6 : Heat Treatment Technology for Bar and Rod Products. (5件)

- 27日 Session 7 : Quality of Bar and Rod Products. (5件)

日本の発表については、いずれも反響が大きく、筆者も「熱間圧延高炭素鋼線材における新ミストパテンティング法の開発」と題して発表したが、これに対する質問の多さに甚だ驚かされるとともに、日本の技術レベルの先端性を改めて感じ取った次第である。

国際会議で講演発表するのは今回が初めてであったが、筆者にとって貴重な経験であり、多くの成果を得た。また、日本の発表者はほとんどが若手の技術者、研究者であったことから同世代の人間といろいろな話ができ、筆者自身、非常に勇気付けられた。

最後に、次回37th大会（テーマ“Environmental Control and Energy-Saving Practices Within the Iron and Steel Industry”）は1993年4月に仙台での開催が決定しており、この大会の成功により東北の国際化が、より一層進むことを期待するものである。

編集あとがき

このたびは伝統と高いレベルを有する鉄と鋼誌のISIJ情報ネットワークの支部による編集をはじめて東北支部が担当させていただきました。そのため東北支部に編集小委員会を設置していただき、編集方針を検討致しました結果、東北地方にある鉄鋼関連の大学、研究機関、企業等の活動状況は会員の皆様方にあまり知られていないので、できるだけ紹介できるような内容にするという方針が決定されました。この方針に沿って、東北支部の活動状況、大学、研究機関の現状、学生の意見、感想、企業の内容、東北支部関連の方で海外出張あるいは留学された方に、原稿を依頼させていただきましたところ、21件の御投稿をいただきました。これらを整理、編集させていただきましたものが、今回掲載のはこびとなった次第です。しかしながら、今回の特集は東北地方にある大学、企業を全てご紹介しているものではありません。紙数の制限もあり、また、編集小委員会の原稿依頼もれ、御都合で御投稿いただけなかったケース等もあります。したがって、これが全てではないことを申し添えます。これらにつきましては次の機会に掲載させていただければ幸いです。

特に平成4年は、旧東北大学選鉱製錬研究所の素材工学研究所への改組、あるいは仙台国際センターで開かれました第4回溶融スラグ及びフラックスの国際会議等、大きな変革あるいは行事がありましたが、支部で取り扱うより、掲載時期等を考慮すると本部レベルの編集に組み入れた方がよいということで、すでに掲載済みとなっておりますので割愛いたしました。最後に、今回の東北支部による編集が会員の皆様方に東北支部を御理解していただくのにお役に立てば幸いです。

日本鉄鋼協会東北支部
 ISIJ情報ネットワーク編集小委員会